

商 況

販 賣 旬 報 第 142 號 昭 和 5 年 10 月 11 日

製 鐵 所 販 賣 部

過去三ヶ年の鋼材供給状態 (其 2)

2、棒鋼 棒鋼と云へば色々あらうが、此處では主要なものとして丸鋼、角鋼、平鋼だけに就て書く、また伸鐵物は一切除外してある。

(a) 丸鋼 寸法別で 3 ヶ年の數量、比較等を表にして掲げて見ると下の通りである。

丸 鋼 (第 2 表)

寸法	總供給數量				3ヶ年 平均 増(減)率
	昭和2年	同3年	同4年	3ヶ年 平均	
6mm	10,938	14,822	11,974	12,396	12%
8	9,019	9,045	10,608	9,557	9%
9	66,743	70,645	88,693	75,360	16%
12	57,079	47,561	68,489	57,710	14%
16	42,253	65,642	73,934	60,610	30%
19	48,471	69,450	75,456	64,459	26%
22	44,218	56,581	60,883	53,894	18%
25	51,096	59,131	65,454	58,560	13%
28	8,518	9,173	10,871	9,521	13%
32	9,388	10,768	13,610	11,255	20%
38	6,679	7,073	10,709	8,154	29%
44	6,097	8,612	9,232	7,980	42%
50	4,779	7,108	9,055	6,981	38%
65	6,754	8,199	10,129	8,361	22%
75	3,519	4,940	9,540	5,000	36%
90	3,031	4,283	5,703	4,339	37%
100	3,794	4,409	3,940	4,048	3%
125	3,642	3,821	4,097	3,850	6%
155	2,118	2,013	2,263	2,131	4%
200	1,885	1,095	1,540	1,507	(1)%
其 他	7,710	7,705	8,928	8,114	8%
計	397,191	472,067	552,108	473,789	18%

お断りして置くが此の各寸法の數量等は、その寸法のみならず其寸法の近所に散在するものを集めたので、大體「以下」と思はれれば間違いない、即ち 8mm と云へば 8mm-6mm の數量と思つて頂きたい。其他の品種も同様である。

そこで此寸法であるが、今日の日本に於ける鋼材の寸法程々、コシイものは尠いであらう。丸鋼の輸入だけの寸法を拾つて見ても昭和 3 年が、123 種昭和 4 年が 136 種、それに長さの寸法別を加へたら何種になるか見當も付くまい。これを見ては寸法の單純化も絲瓜もあつたものではない。

今は米突化の過渡時代であるから已むを得ない。成る程それも一理ある、疊を米突化して 1m×2m としたら古疊の修理に無駄が出るから 3尺×6 尺も作らうと云ふ譯である。

他國はいざ知らず日本の度量衡程込み入つたものは恐らく他にあるまい、日、英、佛の雜居である。昨夜も家庭争議が初まつた、聞いて居ればこうである。娘が「お母さん襪は 15 糎でいいんですわい」と一矢を放つた、お母さんなるものは耻しながら米突法に就てはお米の 15 疋が一斗と少しあると云ふ公設市場の知

識しか持ち合せがない、がさりとて知らないと云へば母たるものゝ威嚴に關するので何とか解決したいが、これ許りはそう簡短には參らず、致し方なく「襪は昔から 4 寸に極まつて居るんだよ」と敢て顧みて他を云ふて逃れようとしたが、どつこいまた横槍が入つた、と云ふのは丁度遊びに来て居たのが最近仙臺から引き越して来たお隣のお嬢さん「あら、小母さん襪は 5 寸ぢやないんですか?。」お母さんのテレルること夥しい。然し結局はどれもこれもほんとはだが、稱呼が異ふ許りに、坐を白けさせたのだ即ち娘は學校で教はる新知識の米突法を振り廻し、お母さんは舊套を墨守して鯨尺で逃れようとしお嬢さんは仙台方面の習慣に従つて曲尺を主張したまでである。鋼材に就ても同様、呼ぶには「3 分」と云ひながら「 $\frac{3}{8}$ 」とも「9mm」とも書く其又「米突化」なるものが字義通り時曲尺の「お化け」で基礎は何時迄経つても時や曲尺に置かれて只 mm と呼び換えただけである、鋼板の 16mm, 23mm, 32mm, など何を意味するものか、それ程此厚さに末練があるなら、何もそんなに、むつかしくすることなく $\frac{1}{8}$ 、 $\frac{3}{16}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、と云ふ昔の「吋」で書いた方がよほど理屈に叶つて居る様に考へられるが、それがそれ過渡時代だ、と云ふのならそれで我慢するとして何故 16mm×4'×8' など、混合式で書かずに 16mm×1,219mm×2,438mm と全部を米突化しないだらう、どうも頭隠して尻隠さずの鶴式米突化の感が深い。

勿論此米突化は一大事業で一朝一夕で目的を達することは至難の事である、歴史から云ふても「真かれ吹く吉備の中山をびにせる細谷川の音のさやけさ」の優にやさしきいにしえは、まさか時も耗もなかつたらう、然し其後南蠻鐵の輸入の頃からそろそろ寸法問題も起つた筈であるが記録は生憎手許に持つて居らない、御維新後は愈々所謂「スイツツル」の時代で完全に「吋」に征服されて殆んど半世紀間使ひ馴れて今日に及んだのだ、それを今更米突化しよと云ふのだから並大抵の事では徹底はむづかしい。一般の米突化を小學生から築き上げて行く様に、鋼材に就ても實需筋の實際家と、中間に介立する問屋と、それと製造家が打つて一丸となつて努力する必要がある。隻手鳴り難く、メーカーの獨斷では實際に適せず、實需家だけでは昔に捉はれ易く、どうしても三位一體となつて精進しなければ出来ない相談である。寡聞の筆者は未だそれほど有力な機關のあるのを聞かないと同時に「あれは机上の空論で決めた寸法だ、そんなものを實需家へ使つたつて無理ですよ」と云ふ問屋筋の怨言と「實需家に聞いたつて贅澤許り言つて居て、米突化も單純化も出来たものではない、やはり天下りで行かなければ駄目だ」と云ふ製造家の言を聞く許りある。此兩様の言葉を妥協せしめてこそ、初めて實際の意味の米突化が成就して製品の單純化と共に合理化が出来るのではあるまいか。

閑話休題、鋼材界の王座を占める丸鋼の供給状態はどうであるか。3ヶ年平均を見ても、473,789 噸と云ふ老大な數字を示し其増加率も3ヶ年平均で18%で如何に自給自足に専念したか窺はれる、増加率を一見して眼に止るのは大體に於てベース物の増加率が多い事である、今日の市況と照し合はせて何か會得するものがありはしないか。數量と増加率とを加味して16mmの進出振りは特に鮮かである。太丸は限られた需要の爲か貧弱な増加より外見られない。それで各寸法の内でどれが一番需要が多いか、又各寸法の全數量に對する割合はどんなものか、3ヶ年平均の數量を率で現はすと次の通りである。

6mm	8	9	12	16	19	22	25	28	32	38	44	50	65	75	90	100	125	150	1,200	其他	計
3%	2	16	12	13	14	11	12	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	—	—	2	100

見る通り何と云ふても花形は9mmで數量7萬5,000 噸を擁し總數量に對し16%を占めて首位にあり、之に置いて19mm、16mm、25mm、12mm、22mm、と云ふ順序である。即ち鐵筋用の需要の異状なる擡頭が供給數量を刺戟して此結果を招來したものと解せられる。然し將來も今日の此傾向を持続するや否やは大に考究を要する問題であらう。

も少し概念的觀察として所謂細丸、ベース物、太丸でアヂヤストして見よう。これも3ヶ年平均の數字を基本としたものである。

	數	量	%
細丸(12mm以下)	155,025		33
ベース物(16mm~50mm)	281,414		59
太丸(65mm以上)	37,350		8
計	473,789		100

即ち所謂ベース物が殆んど全數量の60%數量として28萬餘噸を占めて丸鋼の中堅を形成して居る、細丸は寸法數の尠い割には多量でベース物の半數を越ゆる數量である。冒頭お断りした通り此外細丸の部に伸鐵物として注入されるものに大阪方面で年産大凡3—4,000 噸、

東京も4—5,000 噸合せて1萬餘噸の數量があるが、今の處正確な生産統計が無いので此表から除いてある。

昭和5年8月及9月の輸出概況 8月、9月兩月の輸出數量は稍減少して下表數字の如くなつた。品種類より見れば9mm丸を中心とする中小條類が最多量を占め鋼板が之に次いである。(單位佛噸)

品名別	軌條	條鋼	鋼板	合計
8月	0	500	0	500
9月	30	511	213	754
6月以降累計	79	2,640	1,959	4,679

向先別に分類すれば依然大連が第一位を占め、浦鹽(北樺太を含む)之に次ぐ。

向先別	大連	牛莊	天津	上海	浦鹽	ホリツピン	漢口	合計
8月	490	0	0	10	0	0	0	500
9月	288	0	30	227	105	31	73	754
6月以降累計	2,269	61	296	507	1,307	62	73	4,675

輸出値段は従前内地値段より遙かに低位にあつた。この時の輸出にはダンピング乃至犠牲輸出の香ばしからざる名稱が附せられた。最近輸出値段は漸落してゐるが、内地値段はフルスピードで急轉直下しつつある爲、現在では輸出國內兩値段が餘程接近したのみか。丸鋼ベースの如き内地賣50圓を稱えるに反し、輸出値段56、7圓の如きものも出て來た。

9 月中三港輸入概観—俄然 15,000 吨に減す

6 月に於て一度三港合計 1 萬 9,000 吨に減じて喜びを以て迎へられて居たのに其後は 2 萬吨附近を彷徨して減少の模様もなく氣を腐らして居たが、9 月に入つて俄然別表の通り 1 萬 5,000 吨と著減の趨勢を現はして來て、内地の底入模様と呼應し相當好材料を提供して居る様である。

2) 9 月中顯著な増減を捨て見ると、何より目に付くのは工形が全然全減した事で、勿論一時的現象ではあらうが兎に角珍しい事實である。溝形も無いも同じ事。需要數量から見て、線材が不相變著しい減少の状態を繼續し、針金の需要と相俟つて此不況裡に比較的安穩に経過して居る、流石の鋼板 (0.7 mm 以上) も刀折れ矢盡きて漸く千吨臺に減少した。シート、パイルはどうした風の吹き廻しか 9 月は殆んど見られなかつた。

處が此不況時に丸鋼が増したと云ふ珍現象がある。それも 3/4" など横濱へ 400 餘吨も入つた、多分チェーン、バーであらうとの事であるが何とか國産品で妥協出來ぬものだらうか。神戸の 500 吨は主としてハード、スチールである。(別表昭和 5 年 9 月中三港鋼輸入數量表参照)

3) 去年の 9 月迄と比較してどれがどれだけ増減したか (單位吨)

品 種	前年に比 し(増)減
丸 鋼	39,875
角 鋼	3,223
平 鋼	4,363
等 山	7,552
不 等 山	(1,173)
溝 形	3,457
工 形	7,337
鋼板(0.7mm超)	(1,322)
同(0.7mm以下)	36,570
鋳 力	4,099
軌 條	14,855
線 材	63,345
シートパイル	(4,719)
鋼 管	24,712
其 他	7,631
計	209,805

總體に於て 21 萬吨の減少で昨年に比し 43%の減少率である。

最も減少の傾向の著しいものとして丸鋼、鋼板(0.7 耗以下)軌條、線材、鋼管を數へることが出来るが、丸鋼は昨年が昭和 3 年の好況の反動輸入の爲め多過ぎたので昨年の 5 萬 7,000 餘吨中には少くも 9mm の過剩輸入の 2 萬吨と云ふ數字が包含されて居るから、實質的に減少したのは 2 萬吨位と見るが至當であらう。鋼板 (0.7 耗以下) の減少は内地増産と、消費減少とが重なつたものでこれだけ減少しても未だ未だ内地で生産制限しなければならぬ程である。軌條は、統制力を極度に發揮して此處まで減少せしめたのである。線材は思惑筋が不況に怯えて魔手を縮めた結果ではあるまいか、鋼管の事情はよく分らぬが、これだけ減つても猶東京の倉庫にも大分手持があると云ふ噂を聞くほど需要不振を啣たれて居る。増したものは不等邊山形、鋼板 (0.7 mm 超) シートパイルである、シートパイルは需要の潮に乗つて然も内地生産皆無と云ふ特別の事情にあるから、論外として、鋼板(0.7 耗超)の悲惨な現況は此

數字が反映して居ると見たは癖目か、不等邊の増加は原因の捕捉に苦しむ。

4) 世の中萬事「振り」で初めから中心に落ち付くものでなく右へ左へ振り過ぎては返す、こうした輸入減も今に行き過ぎて好況の素因となる、精々此調子が繼續して好調を刺戟することを望む。

11、12 月渡先物協議會 10 月 8 日當所東京出張所に於て先物協議會を開催三都の希望も一致せざる爲當日は何等決定を見ず、不取敢次記附滯事項のみ決定され、11 月積より實施することゝせり。

第一 契約品の引取遲滯及積出遅延の處理に關し次の申合をなす。

1、契約品の揚地指定は次の期限内に製鐵所に提出すること。

(イ) 定期先物其他之に準すべき契約は契約後 10 日以内。

(ロ) 發生品契約、入札による契約、現物契約其他之に準すべき契約は契約後 5 日以内前項の期限内に揚地の指定を爲さざるものに付ては吨當金 1 圓の遲滯料を申受くること。

2) 買手の要求に依り積止を爲したる契約品は積月の完了と同時に其引受の有無に拘はらず受渡を完了したるものと看做して代金を申受く積月の完了日迄に揚地指定を爲さざるものに付いても亦同じ

前項の規定は製鐵所の積出遅延の爲め生したる積止品に適用せず

3) 積月中に積出し得ざるものを生じたる時は製鐵所は其積月完了後遲滯なく其品種寸法積出豫定日を明示して買手に其採否を問合はすこと、買手は其の問合せを受けたる日より 5 日以内に其の採否を製鐵所に通知すること其の日迄に何等通知なきものに付ては之を採用するものとして處理す、一度採用するものと決定したるもの、其の豫定の日時迄に積出し難きに至りたる時は前二項に準じ更に採否を決定す

以上の規定は買方の責に歸すべき事由(例之、寸法書、契約書の提出遲滯及代金又は擔保の不足)に依り生じたる

積出遅延に適用せず

第二 目缺處理に關し次の申合せをなす 1、次の各號の一に該當する目缺に關する苦情は之を申出でざること

- (イ) 荷受と同時に立會檢量を爲さざりしもの (ロ) 一口(一寸法一回著荷分) 10 吨未満のもの (ハ) 目缺斤
量一口 1.5%以内のもの 2、目缺品に就ては其の目缺したる全量に付き代金を拂戻すものとす 3、目缺品の
證明方法等は從來通りとす 4、本件は算定重量受渡品に限り適用するものとし、實秤受渡品に就ては別に定
むる處に據る 以上

東西市況一落ち付き 捗々しくないとは云へ何と云ふても需要の最好期節を迎へた今日、先行手當薄、在庫減
がそろそろと現實に利いて來た所へ、メーカー値段も、もう是以上下押す餘地はあるまいと思はれる程灰汁脱け相場
を現出し、或は窮鼠反つて猫を噛む式に武者振り付かれるのではあるまいかの豫感も手傳つて、東西ともどうやら安
い乍らも落ち付く所へ落ち付いたと感じて居る模様である。此状態が一時的現象で終るか將來の好轉の機縁となるか
は勿論賣行の如何が影響するが、それよりも猶メーカーの腰の強弱と、問屋筋の販賣統制の如何に懸つて居ると見ら
れて居る、兎に角前旬よりは不安の氣分も薄らぎ従つて今迄の様に註文を温めたり、旗賣りの競争は追々と影を潜め
て、弗々と買氣の現はれた事は喜ぶべき現象と、好感を以て迎へられてゐる。

東京市況

丸鋼 ベース物も遠い將來の不需要に對する一抹の不安はあるが、現在としては不相變のメーカーの態度の強硬
にガツテリと保合つて居る模様で將來の強弱も一にメーカーの持久力の如何にあると云はれて居る。6mm は伸鐵の
注入がないので保合を續け 9mm は統制の力を得て氣分が轉換しそうになつたと見られて居る。

角、平鋼 角も保合状態となつて推移し只 38mm が月が變つてより急に駈りを云はれる様になつた。平は 2½ 以
下は此邊で往復し 3" 以上も趨勢不變。

型钢 中型等山は品薄は變らないが低迷の域は脱するを得ず、大型は駈りと保合 9mm×130mmが12mm×130mm
に代つて光つて來た。不等山も弗々品薄物が現はれて來たが 3"×4" は腐つて居る。溝形も過去に於て永い間活躍
した反動故、草臥れ方も永く一寸目先立直りの見込もある様には云はれて居らぬこと程左様に不人氣である、特に過
食の 2"×4" が甚だしい。之に反し工形は一時の様な事は無當薄いと云へ未だ駈りの域を守つて降らず比較的無
難に過ぎて居る。

鋼板 2.3mm を限界として硬軟を明瞭に畫き出して居る 1.6mm, 3.2mm は手と需要期と重つて引返し氣味であ
る特に番板、3板、4板、5板など盛に昂騰氣勢を上げて居るに反し 60 や 90 は何時迄も底無沼の中を喘ぎなが
ら一歩一歩深みに落ち行く様は哀れてゐる。

大阪市況

丸鋼 製鋼業者の協調成立に幾分安定氣分を見せ從來行はれて來た旗賣商内は防止された。中丸は概して品薄に
て 7圓 30 錢翫みにて取引せられてゐる模様である。兎に角、賣行良好とまでは行かないが既報の如くメーカーの
方針如何に依つては此調子を持続する可能性は確にあるものと見られてゐる。

角、平鋼 幾らか品薄ものも出來て 38mm の如き 8圓以上を稱へられてゐるが需要數量の少き關係上全般に影響
する程度は頗る微弱である。平鋼は當所定期契約成否の如何を氣遣はれて氣迷商況を脱しない。現在の賣行數量と大
阪市内の伸鐵生産量とは需給の平均を保つて居るが原料解體船材の増加と下落に依つて伸鐵原價の遞減を行ひ得るも
のを見て氣配は軟弱を呈して居る、賣行は先づ可もなし不可もなしか。

型钢 山形鋼は大體に於て賣行不振を極めて居る。偶々纏つたものは擧げて新規製作に吞込まれて市場在庫は依
然秋草深く埋れて居る。尤も在庫は一時より非常に少くなつた爲め草の生へる餘地も出來た譯。中山鋼民間ものが問
屋同様に在庫品を大阪へ置いて活躍することゝなつたと放送されても當所の定期に目鼻の附く迄は餘り問題視されない
溝形鋼は型钢界で最も悲觀せられた丈に大分安値に消化されたりしく聽ては多少とも引返すべきものと見られて居る
が尙需要は目立たない。次に工形鋼は時折長さの關係や無いもの高に亂高下を演ずることもあるが大體需要不振の折
柄永續性に乏しく、兎もすれば軟弱に傾いてゐる。

鋼板 1、2 中板は品薄と東京高に 1、30 錢方引返して來た模様であるが厚板は相も變らず安値を遂つて居る。

線材 舶來品輸入愈々少く市場在庫薄と相待つて相場は稍好調子を見せてゐるが製品界は依然香しからず只入用
買のみの有様である。兎に角、いつまでも安値ばかり夢見るわけには行かぬが、高相場に調子づいて秋風にあてられ

まいぞとの緊張気分も漂ふてゐる。

鉄力板 本國安、實需減退……と近來人氣の萎縮したことは殊の外で全く枯尾花も幽靈に見ゆるといつた風、従つて買手側は種々取越苦勞をして居るところへ例のスクラップ W・W・が現はれるので正品級は無慘にも値が消ゆるといつた有様で全く困つたものだと云はれて居る。

販賣旬報 第143號 昭和5年10月22日

製鐵所販賣部

北支那の鋼材市場

1) 廣袤 1100 萬方秆人口 4 億 3,000 萬。然し之れが全土に包藏する富源も、國民全體の有する消費力も過去に於いては空なる幼影たるに過ぎなかつた。されば世界列強及び其資本家をして巨億の金を抛たしめ、幾十年苦心の星霜を費さしめたに拘らず、彼等をして遂に支那とは何ぞやと云ふ懷疑論者たらしめた以外、何物をも獲得せしめなかつたと云ふ。支那鋼材市場は従前我國とは没交渉であつた。然し之の過去に於ける苦い經驗と日常取引の體驗より割出し、支那鋼材市場も亦依然として容易に立寄り難きものなりとなすことは在支邦商共通の信念を形成し、北支一巡、各地に於いても最も力説せられた點であつた。

2) 商賣のやり悪いこと、相並んで更に吾人をして意外とせしめ、逡巡せしめるものは其の鋼材消費量か餘りに僅少であることである。鐵鋼消費量が一國文明のバロメーターならば悠々五千年の文化を誇る支那も現代文明の惠澤に浴する餘りに遅しと云はればならぬ。此の僅かな消費量は主として鐵道用材、建築用材及家具農具用材として存在してゐる。

建築用鋼材の需要が其老大な土地と人口の割合に少い理由は、一つは幾年かに亘る内亂による。治まると見ては亂れ、亂れると見ては治る變幻極りなき政狀に民生は安んぜず、民權は脅かさされ、三民主義は徒らに美名を高閣に連れる現状なれば、個人の財産を保有すべき永久的建築は外國租借地又は租界街の安全地帯以外には全く行はれてゐぬと見てよい。第 2 の理由は廣大なる土地が高層建築を必要とせず、概れ土と石とを以て作る支那式家屋で足るが故で、都市に於て見る洋式建築も僅に鐵筋バーを使用するに過ぎない。

農具用家具用としての鋼材需要はさすがに 4 億の人口を擁する農業國である丈に相當噸數に上ること、短尺屑鋼の輸入高に照して知ることが出来る。普通鋼材を多量に需要する機械工業造船業には殆んど見るべきものがない。

鋼材消費者として最も注目し値するものは鐵道であらう。支那四百餘洲の沃野を連絡する爲に、一部舟楫の便を除いては唯一の交通機關たるの重大使命を擔つて鐵道が發達した。其の主要なるもの、國有鐵道では平漢、京奉、津浦、滬寧、滬杭甬、京綏、正太、道清、汴洛、吉長、漳厦、廣三、廣九、膠濟、四洮、隴海、武昌株州間、株州萍鄉間の各鐵路、外國鐵道としては南滿洲、廣九、東支、海防雲南間等があり、私設鐵道として紹寧、九江南昌間、廣東漢口間、汕頭潮州間の鐵道がある。其池群小の鐵道を合すれば其總延長約 1 萬 1,000 秆に及び之に動く機關車、客車及貨車總計約 1 萬 7,000 輛、之を楊子江以北に限定するも鐵道約 8,000 秆、車輛 1 萬 4,000 輛に達し、之に要する軌條、車輛、橋梁、建築用鋼材の尠少なからざるを思しめる。只連年の戰禍は各鐵路の財政を窮迫せしめること多き結果、鐵道の改良補充乃至新設を阻み、往々變則的需要の減退を來す。最近數ヶ年に於いて其現像が著しかつたが最近政局安定の報は近く其反動としての需要増加を豫想せしめる。尙鐵道材料の購買に關して注目すべきは従前各鐵路は單獨に自己と借款關係ある國の製品を指定することが多かつたが、現在では材料購入の制限が中央政府に集中統一せられ、廣く公入札に附する制度となつてゐることである。

3) かくの如くして支那全土(香港、澳門を除く)に需要される普通鋼材の數量は年額約 40 萬噸に達する、其内譯を 1928 年の支那稅關の輸入統計に就いて見る。

棒 鋼	山 形 鋼	工形及ガーダー	溝形及 T 形	鋼 板	軌 條	短尺及屑	合 計
95,000 噸	13,000	4,000	5,000	53,000	115,000	105,000	390,000

備 考 香港、澳門を除く

軌條は鐵道材料の需要の莫大なるを示し、棒鋼は鐵筋材大部を占めて建築材料の需要を表し、短尺及屑鋼は農具家具材料の需要の多量なるを示す。屑雜 10 萬噸が製品 30 萬噸に比して餘りに大量なるも、農具家具の材料として充分間に合ふのみならず、輸入稅僅少なる爲(條、型、厚板一擔、0.81 海關兩に對し、屑鋼 0.53 海關兩) 割安に入手し得るので歓迎せられるのであらう。

4) 其鋼材は何處より供給されてゐるか。輸入統計には日本よりの普通鋼材 3 萬噸近の計上し、一寸幅を利かして

ある様に見えるが、此の中滿洲への極少量の特殊品、急需品を除いては概ね保稅品を以つてしたのであらうことは想像に難くない、即ち 40 萬噸の需要は擧げて歐米鐵鋼國に委れてゐると見るを妥當とする。1928年の稅關統計による輸出割合を見れば

白國及ルクセンブルク	52%
米	23
英	12
佛	8
獨	5

以上の數字は支那市場に於ける各國の混戰状態を示す。安値の尖端を行く白及ル國が其の過半を占めるのは當然であらうが、獨佛の數量の少いに反して價格に於いて大陸品の後塵を拜してゐるべき英、米の優勢は注目に値する。

11 月、12 月渡先物値段發表 本月 8 日の先物協議會に於て、決定を見ざりし 11 月、12 月渡先物値段は内外の情勢を考慮し 10 月 11 日下記の通り發表された。

棒鋼ベース 丸鋼徑9耗 中小型山形鋼 大型山形鋼 工形鋼 溝形鋼 鋼板 45耗 同32耗 同23耗 同16耗
 65 圓 65 圓 67 圓 72 圓 72 圓 72 圓 70 圓 80 圓 82 圓 88 圓
 外註値段其他は下表の通りである。

品種\區分	入電沖着	河岸着値段 (爲替 $\frac{2}{100}$ - $\frac{7}{100}$)	希望	
			東京	大阪
丸鋼ベース	5-10-6	74.20	57	66
〃 徑 9 mm	5-14-0	76.13	55	62
中小型山形鋼	5-10-0	73.96	60	65
大型山形鋼	5-8-0	72.99	65	71
工形鋼	5-5-0	71.54	65	71
溝形鋼(吋サイズ)	6-5-6	81.45	65	71
〃 (耗サイズ)	5-6-0	72.02	65	68
鋼板 45mm	6-3-3	80.36	65	70
〃 32mm	6-4-3	80.84	75	81
〃 23mm	6-9-6	88.38	77	83
〃 16mm	6-11-6	89.02	83	89
鋳力板 100 lbs	0-19-0	10.08		
〃 170 lbs	1-15-0	18.49		
線材	6-10-0	76.60		
黑薄鋼板	12-10-0	151.53		

備考 1、線材は別項記載の通り、黑薄鋼板は組合値段あるを以て除外したるも参考として掲ぐ
 2、鋳力板は後日發表の筈

線材共販組合 10 月 13 日線材共販組合

第 1 回協議會を當所、神戸製鋼及 5 社各代表者列席の下に大阪平和俱樂部にて開催せられた當所の共販成立に伴ふ挨拶に次ぎ協議に入り組合の販賣方法及之に附隨する條件に付き討議せしも異論區々にして纏まらず
 越へて 16 日再會審議の結果 5 社側は神戸製鋼所、對 5 社間に現存せる定期契約の解除及組合に對する責任數量の分擔を認容せざる爲遂に本月賣出の 11 月のものは條件總て從來通りとし當所 11 月物は噸 74 圓に決定各社隨意申込に應ずることとし其締切を 18 日迄として散會せり。

東西市況一動かず 前旬以來の落ち付き

の儘、何等の變化もなく推移して居ると見られ

て居る、東京は荷動きは前月より鈍く其點に就ては一般に氣を悪くして居るが、さりとして今迄の様に下押す氣配も見えずに要するに弱含みの保合と云はれ、大阪は之に反して品掠れと手當薄により幾分氣を良くして居る模様である、然し見積り物に對しては未だ相當安價受注の跡を絶たず、之が一部市場の空氣を濁らして居ると傳へられて居る。

東京市況

丸鋼 6mm の好調は手持薄と入荷杜絶によつて持續せられ 9mm は安値は 5 圓 7、90 錢を稱へられて居るが大手筋は 6 圓 20 錢を頑張つて散在物の消化を待つて居る模様であるから安値物が消えれば相當強くなる見込と傳へられて居る。ベース物は保合ではあるが今迄に於ける安値入手物が弗々と現はれるので今の處伸力はないと云はれて居る。

角、平鋼 角の 19mm が追々と品掠れとなつて上向き歩調を辿つて居る外何等の變化もなく特に平の伸鐵分野物は一段と弱含みと見られて居る。

型鋼 中形等山はメーカーの賣値固執と極度の出廻り不良に原因して割合に駭りと見られ大型中 12mm x 130mm は東京にて品切に高値を呼んで居る、不等山は弗々と品切れの影がチラツキ初めたが總體には未だ軟弱と云はれて居る、溝形は 2x4 等特殊の物の外は氣配こそ香しくはないが此邊が底近いのてはあるまいかと見て居る筋もあるが立直りまでは相當の時日を要するものと睨まれて居る、工形の無難は不變、5x10 吋物も入荷に霑つて軟化した。

鋼板 番板を初め前旬好感を以て迎へられて居た 32mm 以下の鋼板は復も腰砕け模様となつて低迷し初めたが未だ相當の處には踏み留まつて居る、60mm 以上の不味不變。

大阪市況

丸鋼 12mm, 15mm は市場在庫皆無と云ふ素晴らしき現象を呈して居る。本當に久方振 10 錢方引締つたと云

へば當然活況を豫想されるが時節柄人氣は頗る平靜で積極買進も無く假需要も起らない。當分は先づこゝらで持合か。

角、平鋼 角鋼 38mm 及び 44mm は品切に高値を稱へられて異彩を放つと雖も其他と共に賣行は鈍調。平鋼はザリ安歩調を不改當所定期の成行と伸鐵業者今後の方針如何と云ふ兩低氣壓に狭まれてこゝ一帶は曇り勝。

型鋼 溝形鋼商内はサツパリ行はれない。1½×3" 2½×5" 2½×6" 3×7" は減切品薄となつて10月渡定期物の入荷をそれとなく待受けて居るが目先の氣配は依然軟弱を免れまいと見られて居る、工形鋼は需要減退に取引は少くなつて平靜を保つて居る、然し元來融通性に乏しい品物丈に底意は駭りを失はない。山形鋼 50—100mm の等邊ものは丁度丸鋼ベース同様に取扱はれて商内の妙味が薄い爲に昨今の様な不況時代には尙更等閑に付せられ勝である。1、2 の大口需要もあるが買手は不相變安値を要望して居り、賣手も亦突込賣りを考へて居る。大山形の内 12×130mm は品薄に ¥ 850 を稱へられて異狀を示し其他はあまり動かない。

鋼板 一中板ものは著しく見直したが 10 月定期物の入荷と先行きの妙味薄を氣構へて伸力鈍く、厚板は矢張り安い。

線材 目下の呼値は 大陸物 1 英噸 81 圓 當所及び神戸製鋼品 1 噸 78 圓 50 錢である。

既報の如く大陸品は入荷少く従つて内地品に比し割高を唱へられて居る。内地品も亦間屋の賣溢り人氣稍々安定の氣呼かたがた相場は漸騰歩調を辿つて居る。

鋳力板 地方確詰製造期接近と共に各間屋筋はこれに幾分期待を寄せてゐるやうであるが何分にも前報の如く割安スクラップの爲め市場の氣配ますます混沌たる有様で依然局面打開の見込み立たざる有様と云はれて居る。

販賣旬報 第 144 號 昭和 5 年 11 月 1 日

製鐵所販賣部

過去 3 ヶ年の鋼材供給状態 (其三)

(b) 角鋼 例により過去 3 箇年の諸係數を表示すると次の通りである

寸法\區分	角 鋼				増(減)率		
	昭和 2 年	" 3 年	" 4 年	3ヶ年平均	4 年 %	3 年 %	平均 %
12mm	6,356	5,732	4,374	5,587	(9.8)	(23.7)	(16.8)
16	5,661	7,136	5,621	6,139	26.1	(21.2)	2.4
19	2,144	1,123	875	1,381	(47.6)	(22.0)	(34.8)
25	2,404	1,543	1,754	1,900	(35.8)	(13.7)	(11.1)
32	2,755	2,065	2,293	2,171	(25.0)	(11.0)	(7.0)
38	2,110	2,077	1,557	1,915	(1.6)	(25.0)	(13.3)
44	1,273	1,174	1,021	1,156	(7.8)	(13.0)	(10.4)
50	2,563	1,892	2,000	2,153	(26.3)	5.7	(10.3)
65	2,196	1,882	2,956	2,345	(14.3)	57.1	21.4
75	4,031	1,732	2,496	2,753	(57.0)	44.1	(6.5)
90	904	1,567	1,390	1,267	66.7	(7.8)	29.4
100	2,484	3,014	2,674	2,724	21.3	(11.3)	5.0
其他	1,392	—	1,259	884	—	—	9.5
計	36,278	30,877	30,270	32,475	(14.8)	(2.0)	(8.4)

他の鋼材と特異なのは増減率の計に示されたマイナスの記號である。何が角鋼を減少させたか。曰く自動車の發達!

「風が吹いて桶屋が儲かる」様な廻り諺であるが、實際がそうらしい。角鋼は主として何に使はれるかを考へれば此結論は直ぐ明瞭となるであろう。

抑々明治何年かに秋葉大助氏が日本として有數な發明と稱せられる人力車なるものを造り出して以來其心棒として角の 22mm の需要が頗る増加した、それを場末の停車場や花街の一隅に歴史的の影を留める様に迄驅逐したのは自動車である。「牛込の神樂坂車力はつらいれ」と囁はれた手車の心棒として 25mm—38mm が活躍した、猶比較的大量の陸路運搬用として唯一無二を誇つた荷馬車も角鋼の大なる顧客であつたのである、それが現在の様にトラックなるものに取つて代られた爲殆んど角鋼の需要の心棒を失つた様なものである。即ち自動車の發達が斯くの如く角の需要を衰微せしめたのであると云ふも決して過言ではあるまい。次に、16mm より細いものは鋳其他建築用材として使用されて來たがこれも昔ほど珍重されなくなつた模様である、50mm 以上は主として鐵道のホドデー用などに使はれる様

て其は相當の餘命は保つては居るが他の鋼材に比すれば鮮かな進出は見られない。斯く觀じ來ると角の將來に就ては他の用途を發見せざる限り大なる期待は繋げられないのではあるまいか

(c) 平鋼 平の運命も角と大した變りなく増加率平均が 5、9% と云ふ貧弱なもので決して香ばしい部類には屬して居らぬ。またも車の話であるが車輪用として重要な部分に屬する 32mm—75mm は増減率のみから見ると相當の成績の様であるが内容の時別の數量を眺めると精々 1 萬噸に止まると云ふ慘めさである、これも例の自動車に其責任を負はさすべきであるが先づ先づ此邊で喰ひ止めて居るのは建築用益物として復興などの關係が今迄影響して居つたのではあるまいか特に此等の寸法は橋梁の附屬品としての用途が相當多いのも之を助けて居ると見られる。90mm 以上は農具用として可なりの需要を見て居る様で之は車に於ける自動車の様に新式農具も現はれぬ爲め大なる變化も認められない。

寸法\區分	平				鋼		
	總供給數量				増(減)率		
	昭和 2 年	3 年	4 年	3 年平均	3 年 %	4 年 %	平均 %
19mm	10,655	9,353	7,632	9,213	(12.8)	(18.4)	(15.6)
22	4,670	4,871	4,494	4,678	4.3	7.7	(1.7)
25	8,467	6,586	11,560	8,871	(22.2)	75.5	26.6
32	8,647	7,890	9,709	8,749	(8.7)	23.0	12.2
38	7,463	6,343	9,683	7,830	(14.7)	52.6	18.9
44	3,055	3,723	5,875	4,218	21.9	57.8	39.6
50	11,847	14,375	14,312	13,511	21.3	(.4)	10.4
65	9,968	13,802	13,117	12,295	38.5	(5.0)	16.8
75	9,698	8,804	8,872	9,125	(9.2)	.8	(4.2)
90	3,116	3,289	3,389	3,275	5.6	3.0	4.3
100	4,249	5,579	5,311	5,046	31.3	(4.8)	13.3
125	2,572	4,794	1,823	3,063	86.4	(62.0)	12.2
其他	2,308	—	1,417	1,241	—	—	38.6
計	86,715	89,409	97,194	91,106	3.1	8.7	5.9

19mm や 22mm が減少したのは決して需要が減つたのではなくて此表に缺けて居る伸鐵物の進出が目覺しい爲と考へられる、然も將來伸鐵なるものが我々の分野に喰ひ込む程益々減少を餘儀なくされるのではあるまいか。此等を綜合して考察する時は平鋼の將來も角と同様に決して好望を期待すると云ふことは出来ないのではあるまいか。

棒鋼に就ては 3、4 年前には鐵鋼常識として丸鋼の 1 割が角鋼、2 割が平鋼、と云ふ見當を付けて來たが近來は丸鋼の異狀な膨脹と角、平鋼のナリ貧状態に依り此數字は遂に流用しなくなつたのである。

黑板 11 月積共販理事會の報告 本月 14 日大阪平和俱樂部で 11 月積の賣出數量及値段等の決定の爲に理事會が開催された。共販成立後既に 3 箇月、其の間需要期とは云え、此の頃の鐵相場の下押し一方の軟調子に持ち耐えて、さまでの需要減も見ず價格も一本で通して來た事は吾々メーカーのみならず市場統制の爲から云ふても實に慶賀に耐えない。

とまれ、最初の豫定が 3 箇月と云ふ事で試験期を經過する、11 月積の賣出に附ては相當市場は注視してゐるらしい氣配であつたが、理事會は和氣霽々て別項通り賣出數量及値段を決定し、輸出問題に關連しては遂に市場の要求を納れて先物賣の第一歩として 12 月積をも併せ賣出す事に決定した。

1、賣出數量 内地向 10,000 噸 輸出向 11 月渡 3,380 噸 12 月渡 2,050 噸 輸出向計 5,430 噸

1、値段 標準物たる川崎板を前月通りの据置きにすることは吾々メーカーの希望ばかりではなく 4 社側の希望でもあつたので此れは論外として製鐵所及其他の組合員物に就て相當研究すべき事柄が多かつた。何しろ格差と云ふものは製品自體の價値の反映ではあるが其處には又組合としての希望及市場としての希望もあり色々考慮すべき事象を生み出すわけであるが、兎に角、賣行きが總てを解決して證明してくれるので製鐵所 260 枚建 146 圓 50 錢、中山、日鋼、徳山の 3 社は川崎並の 153 圓と云ふ事に落ち附いた。

輸出向値段に就ては豫てから製鐵所がどうしたわけか相當の格差を附してあるにも拘らず中々捌けなかつた成績に鑑み、遂に 260 枚 115 圓 50 錢替、川崎 124 圓、其他 123 圓と云ふ事に決定したが申込が蓋し期待される値段の決め方であつた。浪原板は内外共に 2 圓引で決定された。

黑板賣出しに關する後報 14 日の理事會後 18 日締切りを経て 22 日平和俱樂部で開催された理事會に於て

11月積の黑板の賣行き其の他に就て下記の成績が説明承認された。

	川崎	製鐵	中山	徳山	日鋼	計
賣出數量	内地向 6,700 (輸出向) (1,430)	2,000 (1,400)	800 (250)	300 (200)	200 (100)	10,000 (3,380)
申込數量	内地向 5,940 (輸出向) (165)	1,000 (1,050)	800 (250)	255 (ナシ)	150 (ナシ)	8,145 (1,465)

大觀するに賣行きとしては悪い方ではない、見方として市場の在庫、今日の如く減少したる場合この數量ではあまり香しくないと言ふ人もあるかも知れないが共販成立日尚淺く而も來月からの冬枯れを思ふ時、これで結構とでも申さなくてはなるまいか。輸出向としては製鐵所の申込數量が豫期通り激増したに反し川崎物の激減は一才意外であつた。

11月 12月積先物賣出と申込

1) 8月1日の旬報に10、11月積先物賣出概況を書いて以來正に3ヶ月空欄となつて居た、誠に久方振りである。限月の3箇月を2箇月に縮め、1箇月に繰り上げて猶足らず。遂に翌月積と云ふ状態に立到つた、即ち10月に於て11月積が漸く決定を見たと言ふ始末である。如何に不況が徹底したか窺はれよう。

2) 先づ別表に眼を移してもらいたい。其處に何を發見するか、申込數量の寡多は後廻しともして表そのものゝ形でさへ昔の面影が大分變つて居る。先づ黑板は共販の成立により影を消し、鉄力板は値段の發表なき爲此表には載らない。それから賣出數量と云ふものも超過を豫期してこそ意義はあるが今日の情勢では全然其必要を認めないので、これまた空欄となつたのは何となく淋しい。

3) 今日此の状態と對比して、昭和3年から4年の初めに掛けての先物申込6萬噸などは實際そんな事があつたかを疑はれる程である、天地霄壤の差とは正にこんな事を云ふのであろう。然し當時は定期がなかつたと云へば決して然らず、今にも増して數多を擁して居たてはないか。然らば今日此表に見る條鋼申込106噸、鋼板申込211噸と云ふ程、需要が減退したのであるか。或は需要は正に之以否と説く者あり、また一面それを裏書する斯くの如き事實もあるが、然しそれは決して全局の通相ではあるまい、昔のあの申込が事實より過大であつたと共に今日の此状態も亦

11、12月積先物賣行概況 (單位噸)

工場名	先物賣出噸數	引受噸數	申 込 噸 數							計	申 込 噸 數						
			線材	一 小	二 形	三 小形	一 中形	二 中形	四 型鋼		一 大形	二、三 大 形	軌 條	總噸數	内 譯		
															東京	大阪	名古屋
條鋼の部	丸鋼 鋼鋼 鋼鋼 山形 山形 工形 先物計	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —
鋼 板 の 部			鐵 力 板 の 部				黑板の部		線 材 の 部								
工場名	先物賣出噸數	引受噸數	申 込 噸 數				品 種	市 場 向	實 需 向	賣 出 噸 數	品 種 區 分	線 材	製 釘 材				
			總噸數	東京	大阪	名古屋								其他			
厚 板		20	17	—	—	17	—					3,000					
一 中 板		114	55	35	10	10	—										
二 中 板		77	40	10	10	20	—				6,148	3,000					
先 物 計		211	112	45	20	47	—				4,000	3,000					

眞實に遠いと思たいのである、即ち寧ろ今の此雌伏こそ更に伸びん爲の一變相と見て敢て悲しみたくないのである。

4) 人あり、こんな少量の申込などは記録するまでもあるまいと、然し好い時許りが記録ではない、斯る記録も何れは昔語りの種になると思つて敢て繼續するのである。また先物なるものが消えぬ限り續けて將來の参考に資する積りである。

9、10 月中大陸市況 前月大陸市況として旬報に報道した鋼塊組合の減産は其後の入電に依つて誤りなることが確められた。即ち 9 月 13 日リエージュに開かれた鋼塊組合非公式實行委員會は該組合を本年未迄存續せしめることに決定し、且第 44 半期に於ける生産割當額は 1929 年 8 月協定の 2 割 5 分減となすことに大體一致したのであつたが其の後各々事情を異にするメーカー間に異議を生ずるに至り正式調印の運に至らず、減産問題はウヤムヤの間に立消となつて本委員會は従來通りの割當を持續して組合の存續を可決した。事此處に至つた事情を察するに。

(1) 世界的不況の中に在つて獨り佛蘭西のみ繁榮を誇り減産問題の如きは少くとも今の所對岸の火災である爲他の諸國と意見を異にすること。

(2) 以上の事情に關聯して減産の標準を何處に置くかの點に付いて諸國に意見の相違あること。

を擧げることが出來よう。殊に第 2 の點に就いては割當減少を目標として進むことに一應意見の一致を見たとし、ても其の基準を何處に置くかは各國の直接の利害に關係する所て、佛蘭西は寧ろ生産増加の現状に於て割當の多きを望み自己に不利なる協定には組合の運命を賭して不贊を唱えるべく、恰も往年獨逸が組合に對する關係の其と異なる。即ち、一方は 1929 年 10 月に於ける各國實産額の 25% 減即ち年産總額 27,190,000 噸を以つてすべしとなすに對し他方は 1926 年の組合成立頭初に於ける割當總額及各國割當率を其の儘に認むべしとなす。(1926 年に於ける割當總額は 27,587,000 噸)而して第 1 案を支持するは獨逸、白耳義及ザール。第 2 案を主張するは佛蘭西及ルクセンブルグの 2 箇國である。第 1 案に依つて得る獨逸の割當は月額 1,033,000 噸、白は 277,000 噸。第 2 案に依つて得る佛蘭西の分前は 706,000 噸、ルク 188,000 噸。此等の主張と彼等の最近に於ける實産額を對比すれば

	獨逸	ザール	白耳義	ルクセンブルグ	佛蘭西
主張する割當額	1,033,000 噸	150,000	277,000	188,000	706,000
最近に於ける實産額	896,514 噸 (8 月)	168,919 (7 月)	255,840 (7 月)	177,270 (8 月)	716,800 (8 月)

更に獨、佛相對峙して譲らざる眞相を露骨に分析すると一層の興味ひくものがある。佛蘭西は第 1 案たる 1929 年 10 月に於ける實産額の 25% 減に於ては僅かに月額 635,000 噸に割當を得るに過ぎないに反し 1926 年案に於ては 716,800 噸を得るであろう、而も組合規約に依つて超過生産に對し噸に 4 弗の罰金を支拂ふ義務を負ふを以て 8 月に於ける生産を將來に於ても續けるに於ては兩案は下の如き得喪を意味する。

(1)	775,000 Tons (8 月中生産高)	
	716,800 Tons (1926 年割當)	
	58,200 Tons × \$4 = \$232,800 (罰金)	
(2)	775,000 Tons (8 月中生産高)	
	635,000 Tons (1929 年 10 月案)	
	140,000 Tons × \$4 = \$560,000 (罰金)	

又獨逸の現状は生産額頓に減少し従來と地位を顛倒して組合より保證金(噸 2 弗)を受くるの立場にある爲兩案の選擇如何に依つては保證金の額に甚しき差異を生ずるであろう。

(1) 獨逸の割當は 1926 年案に依れば 993,000 噸
1929 年 10 月の實産に依れば 1,033,000 噸

故に獨逸はより多くの保償金を受け得る第 2 案を主張すること勿論で此の利害の打算が遂に減産協定を不調に終らしめたのである。

もつとも不況斯くの如く深刻にして、各國共殆んど極端なる生産制限を餘儀なくされてる現在に於ては、實質的影響は殆んどないと思つて差支ないのではなからうか。市場の期待する所は寧ろより具體的にしてより積極的な共販組合の出現であらねばならないから。然し聞く所に依れば白耳義に於ける大部分の工場は如何なる形式に於て共販組合には絶對反對であるとのことである。其後の大陸市況は不況更に深刻と謂ふ以外何物もない。長い間待たれた秋の需要期も目薬種の引合増加(棒鋼に限る)を見たのみ、大型物の如きは佛蘭西の猛烈な競争に會つて相場は破天荒の勢で落下して行く慘めさである。各メーカー共悉く生産費を割つてゐる、だからと云ふ論法は非合理的な現状には當てはまらないかの如く見える。底は何處か? 霜枯月も間近に迫つてゐる。ブラツセル取引所相場次の如し

	棒鋼	工形 (NP)	工形 (BS)	山形 (大形)	鋼板 (3/16")	ピレット (2")
9月3日	4-5-0	4-4-0	4-5-0	4-5-0	5-3-0	3-16-0
9月10日						
9月17日	4-4-6	4-0-0	4-1-0	4-0-0	4-19-6	3-12-6
9月24日	4-4-6	3-17-6	4-0-0	4-0-0	4-18-6	3-12-0
10月1日	4-3-6	3-16-6	3-17-6	3-18-6	4-17-6	3-11-6
10月8日	4-2-9	3-15-6	3-17-3	3-18-0	4-16-0	3-9-0
10月15日	4-1-0		3-16-0	3-18-0	4-15-0	
10月22日	4-1-0		3-16-0	3-18-0	4-15-0	

尙其他の國際組合の動勢を窺ふに。

- (1) 線材組合は第4 4半期に對し其の割當額を 360,000 吨となし第3 4半期の 425,000 吨の約 1 割 5 分減を決定した外公定相場 5 志下げ
- (2) 軌條組合は割當額、値段等凡て従前通りに決定

註 10月15日~10月22日の相場は齋藤囑託よりの入電に依る

東西市況一弱含保合 其後の荷動きは期待を裏切つて陸張り捗々しからず、爲に我慢に我慢をして來た市場も何となく不安を感じる様になつた模様で丸鋼ベース物の如き軟弱の氣配を致馴するに至つたと傳へられて居る、然し一方では實需家が買慕つて來た事から見て大體此邊を大底として見て居る筋もある、此の様な強弱取りませた材料から保合てつは居るが稍弱腰と觀察されて居る。

東京市況

丸鋼 6mm はメーカー値段 8 圓 20 錢見當に弗々入荷を見て稍軟化せるも他寸法に比しては未だ光つて居る。9mm はマバラ筋の消化から成行 5 圓 90 錢位近引き締つて來たが一方大手筋の協調の空氣怪しくなり 5 圓 85 錢賣り崩しの噂も立つて氣を悪くして居ること夥しい。今日此際は特に自重を要する時機で大局に着眼して小手先の商賣は切に慎むべきではあるまいかと云ふ市場の聲もある模様である。ベース物は賣行不振に勝たれず稍頭重の氣味となりメーカー値段まで追ひ込まれて行く様であると傳へられて居る。

角鋼、平鋼 角の 19mm 38mm が品薄に躍進して居るがこれも定期の品の入荷迄が命だと見て居る筋がある。'それより細いものは伸鐵の 6 圓 8、90 錢の安値に押されて氣勢昂らず、平も 2 1/2" 以下はやはり伸鐵の 6 圓 50 錢位のものまで平均される模様で何處となく弱含みと眺められ、3" 以上では 1/2" x 3" が手當薄に 7 圓 5、60 錢と頑張つて居る外目星しいものはない。

型鋼 その昔歎きの的であつた中型等山は近來需給の調和を得て盛に好調を續けて居る、大型も 130mm など不相變の品薄に好感を持たれて居る、不等山は 1/4 x 2 x 3 が品掠れに 7 圓 6、80 錢を呼んで居る外盆槍、溝形は 2 1/2 x 5 が追々と擡頭して來る外、流石の持て餘し物も消化に連れて先行に聊か期待を繋かれる様になつたか未だ餘勢に驅られて沈滞の域を脱することは出来ないと言はれて居る、工形は 20" 以上の大型物が手持少く氣持の好い外大勢不變。

鋼板 32mm 以下は相當駢りと云はれて居るが一部では、定期の入荷を眺めてギリ貧を辿るであらうとも云はれて居る。60mm 以上は益々不味に 66 圓が出來るとも或は 60 圓が出現したとさへ流言非語が放たれる程なので先行期待薄を傳へられて居る。

大阪市況

丸鋼 市場依然閑散ながら在庫減及びメーカーの比較的強腰に支へられて無碍にも崩れぬが限産協定等の所謂人爲策の限りを盡して支持されてゐる丈に既に無理あるものと見られて活氣乏しく只管需要の自然増加を待たれて居る。

角、平鋼 角鋼 50mm 迄の小、中のものは鈍調ながらも動いて居るが、65mm 以上のものは全く動かない。平鋼は漸落し伸鐵ものは目下 ¥66.00 を保つて居るが目先尙一段落込むものと見られて居る。然し賣行は悪くないやうである。

型鋼 山形鋼中型ものは在庫多からざるため品薄もの等にて小高下の區々ながら伸力は鈍い。大型ものは不振。薄形鋼は賣行皆無に弗々入荷する當所品も閑散なる倉庫を賑して居るのみで商内にはならないと云はれて居る。工形鋼は底意駢りながら賣行不振の程度は前者に劣らないやうである。

鋼板 1、2 中板 10 月もの定期の入荷にやゝ引弛み待受けられてゐた品丈に入荷品は漸次消化されてまづ無難である。厚板は前送の不安去らず目先 ¥60.00 割れさへ豫想せられて居る。

線材現物愈々拂底せしため相場は強保合である。當所 11 月物値段 74 圓發表は 10 月渡しより 4 圓方値下げとなれ共間屋筋はすでに先月頃より 74.5 圓位との豫想をしてゐた模様で市況には何等影響なきものゝ如く引續き好調を示して居る。

鐵力板 昨今の如く商賣が閑だといふ餘計な事に氣を奪はれるもので、市中には目下觀望式氣分横溢しいつものまにやら商談等は忘れられる程の閑散ぶりを呈してゐる。

10 月上中下旬線材薄板鐵力板輸入速報

區分 品名	上旬				中旬				下旬			
	神戸	大阪	横濱	計	神戸	大阪	横濱	計	神戸	大阪	横濱	合計
	自 9月29日 至 10月 8日	"	自 9月27日 至 10月 7日		自 9日 至 17日	"	自 8日 至 17日		自 18日 至 28日	"	自 18日 至 27日	
B.W.G.No.5	605	—	141	746	739	51	128	918	564	—	203	767
其他	496	101	124	221	236	206	51	493	132	71	3	206
計	1,101	101	265	1,467	975	275	179	1,411	696	71	206	973
10 月 計	—	—	—	—	2,076	358	444	2,878	2,772	429	650	3,851
薄板 0.7mm 以下	496	5	65	566	724	36	—	760	20	15	—	35
10 月 計	—	—	—	—	1,220	41	65	1,326	1,240	56	65	1,361
鐵力板	950	12	978	1,940	65	—	496	561	294	478	443	1,215
10 月 計	—	—	—	—	1,105	12	1,474	2,501	1,399	490	1,917	3,806

東京大阪市中相場

寸法	上旬		中旬		下旬		寸法	上月		中旬		下旬			
	東京 10月 6日	大阪 10月 5日	東京 10月 20日	大阪 10月 15日	東京 10月 28日	大阪 10月 25日		東京 10月 6日	大阪 10月 5日	東京 10月 20日	大阪 10月 15日	東京 10月 28日	大阪 10月 25日		
丸鋼															
6mm	8.80	8.70	9.00	8.80	8.90	8.80	溝形鋼	6.90	6.80	6.90	6.80	6.80	6.80		
9	6.15	6.00	6.20	6.00	6.10	6.00	1/4" x 2" x 4"	7.10	7.70	7.00	7.70	7.00	7.30		
12	6.00	6.40	5.90	6.50	6.00	6.40	0.312 x 2 1/2 x 5	"	7.20	"	7.30	"	7.20		
19	5.80	6.00	5.80	6.10	5.75	6.00	3/8 x 3 x 6	7.00	7.00	6.90	7.00	"	7.00		
25	"	"	"	"	"	"	3/8 x 3 x 8	"	7.20	7.00	"	"	6.90		
50	6.40	7.00	6.30	7.00	6.20	6.70	3/8 x 3 1/2 x 10	7.20	7.00	"	"	"	7.00		
65	"	7.20	"	7.20	"	7.00	3/8 x 3 1/2 x 12	7.20	7.00	"	"	"	7.00		
角鋼															
9mm	7.60	7.50	7.50	7.50	7.30	7.50	工形鋼	7.20	7.70	7.00	7.60	7.30	7.40		
12	"	7.90	"	7.40	"	7.40	1/4" x 3" x 6"	8.50	9.80	8.30	9.70	8.50	9.60		
15	7.50	7.00	"	7.00	"	6.70	3/8 x 6 x 12	7.00	8.00	7.00	8.00	7.00	7.80		
19	7.80	7.50	8.50	7.50	8.30	7.50	0.28 x 4 x 8	8.10	8.30	8.00	8.20	8.00	8.00		
38	8.00	8.40	8.80	8.40	8.80	8.40	0.35 x 5 x 12	7.60	8.20	7.60	8.00	8.00	7.80		
平鋼															
1/4" x 1 1/2"	6.90	7.10	6.90	7.00	6.80	6.80	0.36 x 5 x 10	9.20	9.30	9.10	9.30	9.00	9.10		
1/4 x 2	7.00	"	7.00	"	"	"	16 x 4 x 8	9.10	"	9.00	9.40	"	9.30		
1/4 x 3	7.20	7.40	7.20	7.30	7.00	7.20	3.2 x 4 x 8	8.20	8.40	8.00	8.40	8.00	8.20		
3/8 x 4	7.50	"	7.40	"	7.30	"	3.2 x 5 x 10	8.00	8.30	7.90	8.30	7.90	"		
1/2 x 4	6.70	"	"	"	"	7.30	6.0 x 4 x 8	7.30	7.00	7.30	7.00	6.90	6.50		
等邊山形鋼															
6 x 50 x 50	6.70	7.00	6.80	6.90	6.70	6.80	6.0 x 5 x 10	"	"	"	"	"	"		
6 x 65 x 65	"	7.10	6.70	7.20	6.60	7.20	9.0 x 4 x 8	"	6.80	"	6.70	"	6.60		
9 x 75 x 75	"	6.80	6.60	6.60	6.50	6.60	9.0 x 5 x 10	"	"	"	"	"	"		
9 x 130 x 130	8.00	7.70	8.00	7.00	7.80	7.00	9.0 x 8 x 8	"	"	"	6.70	"	6.60		
12 x 130 x 130	8.10	8.20	8.30	8.50	8.00	8.30	9.0 x 5 x 10	"	"	"	"	"	"		
15 x 150 x 150	7.70	7.70	7.70	7.70	7.70	7.60	薄鋼板 (13 枚)	米	58.0	58	57.0	59	57.0	57.5	
不等邊山形鋼															
3/8" x 2" x 3"	7.30	7.60	7.20	7.50	7.20	7.30	英	57.0	57.5	56.0	58	56.0	56.5		
3/8 x 3 x 4	6.70	7.30	6.60	7.20	6.60	7.10	八幡	"	56.5	"	57	"	56.0		
3/8 x 3 1/2 x 5	6.90	6.80	6.70	6.80	"	6.70	鐵力板	米	(170lbs)	21.30	21.00	21.30	20.00	21.30	19.60
3/8 x 4 x 6	7.20	8.30	7.20	8.30	7.10	8.00	{100	{100	11.80	10.50	11.70	11.00	11.70	11.30	
1/2 x 4 x 6	7.80	8.00	7.70	8.00	7.80	"	{170	{170	19.30	19.30	19.00	19.00	19.00	18.80	
備考															
單位 100 kg につき (置場値段)、但し薄板は 1 枚當り。線材は 1 噸當り。鐵力板は 1 箱當り。															

昭和5年8月中國別輸入數量表 單位噸

品 種	英	佛	獨	白	埃	和	典	合	關	印	其他	計	本年累計
條及 竿鐵 (丸、角、平の形にして 徑又は幅15m/m を越えざるもの)	40	30	387	51	24	—	44	—	—	—	12	588	7,734
〃 (丸、角、平の 他の形及)	244	—	1,326	71	112	—	34	44	—	—	11	1,842	21,896
〃 (アングル形)	490	—	129	21	—	—	—	—	—	—	—	640	17,833
〃 (其他)	630	339	2,652	791	—	—	—	963	—	—	9	5,384	39,548
レ フ イ ツ シ ユ ト	—	—	865	—	—	—	—	1,411	—	—	—	2,276	10,572
フ イ ヤ ー (巻きたるもの にして径5m/m を越えざる者)	—	—	35	—	—	—	—	106	—	—	—	141	809
ワ イ ド (巻きたる もの其他)	—	304	3,908	862	—	—	474	1,388	—	—	—	6,936	54,494
鐵 板 (金屬を鍍せざるものに して厚0.7m/mを越え ざるもの其他)	20	—	216	—	—	—	5	102	14	—	—	384	6,339
〃 (金屬を鍍せざるものに して厚0.7m/mを越え ざるもの其他)	995	—	350	—	—	—	—	18	—	—	3	1,366	24,981
〃 (金屬を鍍せざるものに して厚3m/mを越えざ るもの)	20	51	176	114	12	60	9	100	—	—	—	542	7,408
〃 (金屬を鍍せざ るもの其他)	1,246	49	818	128	—	—	2	54	—	—	—	2,297	34,501
〃 (錫鍍したるも の)(葉鐵及葉鋼)	1,123	—	29	—	—	—	—	3,301	—	—	156	4,609	54,686
〃 (亞鉛鍍したる者)	9	—	72	—	—	—	—	68	—	—	45	194	1,665
〃 (其他卑金屬を 鍍したるもの)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	86
鐵 線	53	—	100	16	3	—	27	71	—	—	—	270	2,857
リ ー ド ・ ワ イ ヤ ー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
鐵 リ ボ ン	193	1	308	132	—	—	32	53	—	—	—	719	3,134
帶 (箍 鐵)	120	724	1,430	2,744	—	—	—	46	—	—	—	5,064	13,959
パ ラ ゴ ン ・ ワ イ ヤ ー	7	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	14	137
線 索	16	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	17	347
撚 合 線	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	36
パ ー ブ ド ・ ツ ウ イ ス ー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ト ・ ワ イ ヤ ー 及 管	182	176	528	—	—	—	—	655	—	—	—	1,541	23,257
特 殊 鋼(稅表一)	19	—	6	—	37	—	15	12	5	—	4	98	1,576
〃 (稅表二)	6	—	19	—	13	—	8	3	—	—	1	50	1,121
鐵 道 車 輪 及 車 軸	—	—	—	—	—	—	—	20	—	—	—	20	168
鐵 道 車 輛 用 タイ ヤ ー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	460
鐵 道 車 輛 用 グ ラ フ ス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
合 計	5,413	1,674	13,361	4,930	201	60	650	8,417	46	—	241	34,993	349,632
フ ェ ロ ・ マ ン ガ ニ ー ス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,622
フ ェ ロ シ ル コ ン 及 シ リ コ ン ビ ー ゲ ル ア イ ゼ ン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60
其 他 の 不 可 鍛 成 鐵 合 金	—	—	14	—	—	—	16	—	—	—	—	30	443
シ ー ト バ ー (テ イ ン バ ー を 含 む)	—	317	1,745	—	—	—	—	813	—	—	617	3,492	52,662
イ ン ゴ ツ ト ・ プ ル ー ム ・ ピ レ ッ ト 及 ス ラ ツ プ	—	625	250	—	—	33	5	58	—	—	—	971	6,396
ケ ツ グ ス チ ー ル 及 バ ン プ ス チ ー ル	—	—	—	—	—	—	76	—	—	—	—	76	276
其 他 の 塊 及 錠 鐵	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	—	942	2,009	—	—	33	97	871	—	—	617	4,569	61,459
銑 屑 及 故 鐵	528	—	—	—	—	—	—	1,212	7,051	17,888	3,043	29,722	302,765
	2,614	—	—	102	—	—	—	18,311	660	15,436	4,313	41,436	399,788

昭和5年8月中當所品種寸法別生産高 (其一) (單位噸)

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數
棒鋼の部		型鋼の部		250×125	487	15	3	耳付鋼板		10	25
丸鋼		等邊山形鋼		300×150	579	16	29	4.5mm	464	11	8
6mm	11	20mm	50	計 2,098		17	5	7	702	12	6
9	5,801	25	63	T形鋼		18	2	8	236	13	2
10	1	30	13	5"×4"	13	16	331	9	359	14	9
11	27	40	102	計 13		20	5	10	42	15	1
12	71	45	287	Z形鋼		23	1	11	59	16	3
13	5	50	842	mmmmmm	10	25	94	12	22	17	4
15	4	65	1,184	150×50×40	10	26	13	16	25	18	2
16	231	70	25	計 10		32	2	19	47	19	3
18	62	75	81	型鋼計 13,650		36	1	計 1,956		21	3
19	219	90	196	條鋼合計 23,572		20"	33	縞鋼板		22	4
21	54	100	145	鋼板の部		25	62	4mm	3	計 107	
22	66	130	1,644	(鋼板0.7mm以下)		27	5	4.5	162	鋼板合計 13,623	
24	9	150	1,866	0.5mm	1	28	4	4.8	13	軌條及附屬品の部	
25	174	200	493	7sheets	22	29	4	6	201	軌條	
26	1	計 6,991		B.W.G.No.	113	30	2	1/4"	2	6k	552
28	44	不等邊山形鋼		23	2	31	19	3/8	4	8	166
30	22	mm mm		29	2	32	16	25"	2	9	864
32	33	50×35	2	30	771	34	16	計 387		12	1,062
34	35	65×50	81	31	19	35	7	未剪斷縞鋼板		22	1,547
36	70	75×50	487	33	19	36	9	4.5mm	43	30	3,349
38	22	75×65	364	計 1,583		37	5	6	71	37	8,611
44	12	90×75	229	鋼板(0.7mm超)		38	23	8	11	50	5,321
110	8	100×75	554	0.75mm	2	39	24	計 135		計 21,472	
115	2	125×90	268	1	76	40	20	耳付縞鋼板		附屬品	
120	4	150×100	642	1.2	8	41	14	4.5mm	80	PE50K用	331
125	10	4"×3 1/2"	27	1.4	1	42	17	計 80		スパイキ	79
計	6,998	4 1/2 × 3	62	1.5	9	43	8	未剪斷縞鋼板		トラックボ	25
角鋼		7×4	88	1.6	2,296	44	63	6	71	マルチナット	
14mm	223	計 2,804		2	11	45	15	8	10	計 435	
16	123	溝形鋼		3	3	46	10	9	10	計 21,907	
38	113	5"×2 1/2"	37	3.2	1,381	47	22	計 135		線材の部	
40	11	6×2 1/2	46	3.5	8	48	3	計 80		線材	
44	59	6×3	148	4	38	49	38	計 80		5.5mm	2,793
46	3	6×3 1/2	119	4.5	122	50	2	計 80		計 2,793	
50	108	7×3	15	5	7	51	2	計 80		製釘材	
65	128	7×3 1/2	26	6	6	52	2	計 80		5.5mm	2,699
70	1	8×2 1/2	27	6.5	3	53	19	計 80		計 2,699	
75	53	8×3	30	7	21	54	7	計 80		線材合計 5,492	
80	2	8×3 1/2	30	8	12	55	57	計 563		其他鋼材の部	
90	113	8×4	129	8.5	141	56	7	計 563		外車	409
100	66	10×4	3	9	155	57	113	計 563		輪軸	166
計	1,003	mm mm		10	13	58	18	計 563		鋼線	21
平鋼		250×90	576	11	8	59	1	計 563		坐鐵	9
15mm	1	300×90	426	12	924	60	10	計 563		不良鋼板	19
19	101	計 1,734		13	6	61	10	計 563		二級鋼板	25
22	119	工形鋼		14	10	62	32	計 563			
25	281	6"×5"	137	1	12	63	10	計 563			
32	318	7×4	33	1.14"	10	64	22	計 563			
38	45	10×5	119	1/16"	2	65	19	計 563			
75	561	10×6	290	3/16"	1	66	32	計 563			
90	396	12×5	401	7/16"	2	67	19	計 563			
100	45	mm mm		1/2"	1	68	4	計 563			
125	54	150×75	52	1	11	69	13	計 563			
計	1,921	棒鋼計 9,922		1 1/2"	17	70	1	計 563			
				B.W.G.No.	9	71	11	計 563			
					10	72	11	計 563			
					13	73	7	計 563			
					17	74	19	計 563			
					2	75	7	計 563			
					10	76	32	計 563			
					6.847	77	10	計 563			

和昭5年9月中棒鋼寸法別揚地別引渡高表

(單位噸)

區分 寸法	丸鋼								合計	區分 寸法	角鋼								合計
	民間向普通鋼				規格品及特殊鋼						民間向普通鋼				規格品及特殊鋼				
	阪神揚	京濱揚	其他	計	阪神揚	京濱揚	其他	計		阪神揚	京濱揚	其他	計	阪神揚	京濱揚	其他	計		
6mm	—	—	9	9	—	—	14	14	23	12mm	10	—	5	15	—	—	1	1	16
6.5	—	—	—	—	—	—	5	5	5	16	5	5	10	20	—	—	—	—	20
7	—	—	—	—	—	—	10	10	10	19	10	5	—	15	—	1	—	1	16
8	—	—	55	55	—	1	5	6	61	22	10	—	5	15	—	—	—	—	16
8.5	—	—	—	—	—	—	14	14	14	28	—	—	5	5	—	1	—	1	16
9	1,231	1,643	290	3,164	—	3	16	19	3,183	32	30	—	10	40	—	—	—	—	5
10	—	—	—	—	1	3	—	4	4	38	45	5	7	57	—	1	—	1	40
11	—	—	5	5	—	—	—	—	—	44	15	—	—	15	—	—	—	—	58
12	—	—	—	—	—	3	46	49	49	50	10	5	—	15	—	—	—	—	15
13	—	—	—	—	—	9	4	13	13	55	—	1	—	15	—	2	5	7	22
15	—	—	—	—	—	4	—	4	4	60	—	1	—	1	—	—	—	—	1
16	—	—	—	—	—	8	52	60	60	65	—	—	—	—	—	16	16	16	1
18	—	—	—	—	—	12	51	63	63	75	—	1	—	1	—	3	10	13	14
19	—	—	—	—	—	11	40	51	51	80	—	1	—	1	—	—	—	—	14
22	—	—	—	—	—	3	13	16	16	90	—	1	—	1	—	5	1	6	1
24	—	—	—	—	—	—	1	1	1	100	—	—	—	—	—	3	2	5	7
25	—	—	—	—	—	202	202	202	202	110	—	—	—	—	3	—	—	—	5
26	—	—	—	—	—	1	1	1	1	130	—	—	—	—	5	16	21	3	3
28	—	—	—	—	2	7	3	3	3	150	—	—	—	—	6	28	34	—	3
29	—	—	—	—	—	3	—	—	—	計	135	25	202	202	—	30	79	109	311
30	—	—	—	—	—	16	16	16	16	平鋼									
32	—	—	—	—	—	4	24	28	28	19mm	79	10	5	94	—	—	—	—	94
34	—	—	—	—	—	25	25	25	25	22	98	16	10	124	—	—	3	3	127
36	—	—	—	—	—	5	5	5	5	25	53	57	52	162	—	—	9	9	171
38	—	—	—	—	—	3	3	3	3	32	42	5	15	62	—	—	—	—	62
40	—	—	—	—	—	7	11	18	18	38	15	5	123	143	—	—	1	1	144
44	—	—	—	—	—	2	2	2	2	44	15	—	44	59	—	—	2	2	61
50	—	5	15	20	—	7	11	18	18	50	65	5	20	90	—	—	6	6	96
55	25	—	—	25	—	—	5	5	5	60	—	—	—	—	—	—	1	1	1
60	5	—	—	5	—	—	—	—	—	65	22	55	30	107	—	—	7	7	114
65	30	3	—	33	—	9	15	24	24	75	30	35	18	83	—	—	3	3	86
70	5	—	—	5	—	—	—	—	—	83	—	—	—	—	—	—	1	1	1
75	5	2	10	17	—	7	54	61	61	90	—	—	—	—	—	—	—	—	1
80	5	—	—	5	—	6	6	6	6	100	—	2	1	3	8	2	—	10	13
85	—	—	—	—	—	5	5	5	5	125	—	—	—	—	5	—	1	6	6
90	25	—	3	28	—	2	5	7	7	平鋼計	419	190	319	928	13	2	34	49	977
95	5	—	—	5	—	—	—	—	—	合計	2,049	1,899	748	4,696	84	144	838	1,066	5,762
100	—	6	—	6	—	3	25	28	28										
110	—	—	—	—	—	7	7	7	7										
115	25	—	—	15	—	4	2	6	21										
120	—	—	—	—	—	2	2	2	2										
130	27	4	—	31	—	8	3	11	42										
140	15	6	—	21	—	—	1	1	22										
150	13	9	—	22	1	5	—	6	28										
160	36	4	—	40	—	—	—	—	40										
170	16	1	—	17	—	—	—	—	17										
180	22	—	—	22	67	—	—	67	89										
200	15	1	—	16	—	6	4	10	26										
丸鋼計	1,495	1,684	387	3,566	71	112	725	908	4,474										

昭和5年9月中當所製品揚地別發送高

(單位噸)

品名	區分	揚地別											合計		
		阪神地方	京濱地方	當所渡	伊勢灣東地方	山陰北陸地方	內海沿岸地方	沿國地方	奧羽地方	關門九州地方	北海道太方	滿鮮支那		臺灣	其他
鋼材	官廳	3,778	6,281	289	85	379	95	—	2,575	—	1,268	—	258	—	15,008
	民間計	13,210	9,920	3,351	4,499	—	—	—	1,095	140	1,847	65	—	—	34,127
鋼片及鋼塊	官廳	16,988	16,201	3,640	4,584	379	95	—	3,670	140	3,115	65	258	—	49,135
	民間計	128	611	2,742	—	—	794	—	2,906	—	—	—	—	—	7,180
副製合	官廳	23	107	20,648	—	—	928	—	4,095	—	—	10	—	—	25,811
	民間計	17,139	16,919	27,030	4,584	379	1,817	—	10,671	140	3,125	65	258	—	82,126

昭和5年9月中當所品種寸法別生産高

(其一) (單位噸)

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數
棒鋼の部		90	188	Z型鋼		10	494	1.14	10	12	201		
丸鋼		75	342	mm mm mm		11	211	B.W.G.No.		16	113		
7mm		3 3/8"	3	100×50×40		12	149	19	2	19	141		
8		計	1,800	計		13	24	21	9	計	1,786		
9		六角鋼		球山形鋼		14	25	計		二級品			
11		J.196"		mm mm		15	41	鋼板計		計		46	
12		.916		150×75		16	43	9,380		疵物			
13		.706		180×75		19	156	硅素鋼板		計		74	
16		.596		200×75		20	10	0.35mm		鋼板合計		15,693	
17		計		7×3 1/2"		22	8	計		軌條及附屬品の部			
18		棒鋼計		5 1/2×3		24	1	564		軌條			
19		10,880		8×3 1/2		25	67	鐵力板		6K		626	
20		型鋼の部		9×3 1/2		28	25	B.W.G.No.		9		851	
21		等邊山形鋼		計		31	4	33		30		10,920	
22		20mm		型鋼計		32	6	31		37		7,418	
23		25		14,518		33	4	30		45		456	
25		30		條鋼合計		1/4"	3	29		計		20,261	
26		35		25,298		5/16"	1	計		附屬品			
28		40		鋼板の部		3/8"	3	2,131		50K T.P.		264	
29		45		鋼板0.7mm以下		7/16"	3	縞鋼板		// F.P.		85	
32		50		0.7mm sheet		1/2"	2	4.5mm		37		454	
34		55		13		1	6	6		6		34	
36		60		B.W.G.No.		1 1/4	5	8		スパイキ		102	
38		65		33		1 1/2	28	12		トラックボ-		30	
42		70		31		13/4	3	計		ルトナット		計	
44		75		30		20	10	256		未剪斷縞鋼板		軌附合計	
48		80		29		25	8	9		4.5mm		21,230	
50		85		28		30	1	18		6		線材及製釘材の部	
55		90		29		32	1	13		8		線材	
60		95		30		33	1	124		9		5.5mm	
65		100		29		34	6	ユニバーサル平鋼		7		2,776	
70		105		23		35	10	9.7mm		8		222	
75		110		23		36	2	10		9		211	
80		115		23		37	1	11		10		165	
85		120		23		38	3	14		11		3,374	
90		125		23		39	10	19		14		製釘材	
95		130		23		40	4	22		19		5.5mm	
100		135		23		41	4	25		22		計	
計		1,483		23		42	2	334		27		1,357	
角鋼		1,198		23		43	4	耳付鋼板		1		線釘合計	
12mm		5,536		23		44	11	4.5mm		1		4,731	
13		不等邊山形鋼		23		45	3	6		1		其他鋼材の部	
19		mm mm		23		46	8	12		1		車輪	
22		65×50		23		47	2	334		1		輾線	
25		75×50		23		50	5	縞鋼板		1		42	
28		75×65		23		51	1	外輪		1		433	
32		75×75		23		52	2	ボルト		1		65	
36		100×75		23		54	7	ナット		1			
40		150×100		23		56	3	リベツト		1			
計		2,085		23		57	12	座		1			
溝形鋼		2,921		23		60	1	不良鋼板		1			
12mm		mm mm		23		62	6	特殊鋼板		1			
13		75×40		23		66	4	鍛成品		1			
19		100×50		23		69	9	工器具鋼		1			
22		238×80		23		72	2	特殊鋼		1			
25		230×90		23		75	2	延品		1			
28		5"×2 1/2"		23		77	2	其他		1			
32		6×2 1/2		23		80	2	鋼材合計		1			
36		6×3		23		84	9	鋼材總計		1			
38		7×3		23		86	2	67,929		1			
44		7×3 1/2		23						1			
計		10×4		23						1			
平鋼		2,405		23						1			
19mm		工形鋼		23						1			
22		mm mm		23						1			
25		300×150		23						1			
32		350×150		23						1			
38		400×150		23						1			
50		8×5"		23						1			
55		10×5		23						1			
65		計		23						1			
100		3,079		23						1			
125				23						1			

昭和5年9月中當所品種寸法別生産高

(其二) (單位噸)

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數
銹鐵		合金鐵		鋼塊		鋼片		シートパー		短尺	872
本洞戸	46,052	フェロシリコン	46	普通鋼塊	96,875	内部向	65,983	内部向	8,952	層鋼	1,042
所岡畑	15,586			電爐	1,143	外部向	7,335	外部向	1,005		
	17,509			坩堝	34						
計	79,147	計	46	鑄造	1,388	計	73,318	計	9,957		
				計	99,440						

昭和5年9月契約高

(單位噸)

品種\區分	官廳小計		民間小計		8月中合計			本年度累計		
	噸數	金額	噸數	金額	噸數	金額	噸當	噸數	金額	噸當
大 條	29	3,911	6,191	462,105	6,220	466,016	74.92	24,049	1,974,453	82.10
中 條	317	32,051	563	38,628	880	70,679	80.32	10,253	973,226	94.92
小 條	172	16,588	1,593	99,145	1,765	115,733	71.24	21,018	1,566,870	74.55
鋼 板	1,257	130,124	1,812	138,998	3,069	269,122	87.69	51,218	4,476,412	87.40
重軌條及附屬品	—	—	1,721	161,316	1,721	161,316	93.73	120,516	11,230,501	93.19
輕軌條及附屬品	124	13,469	—	—	124	13,469	108.62	7,712	743,412	96.40
線 材	—	—	412	30,560	412	30,560	74.17	28,421	2,260,984	79.55
黑板、硅素鋼板、板	—	—	5,545	788,284	5,545	788,284	142.16	17,882	3,491,141	195.23
軾 力	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
車軸外輪鍛成品	176	35,980	11	2,395	187	38,375	205.21	4,202	1,062,468	252.85
工具鋼、特殊鋼	—	62	16	4,886	16	4,948	309.25	82	44,739	545.59
其他鋼材	—	—	—	—	—	—	—	92	21,019	228.47
鋼材小計	2,075	232,185	17,864	1,726,317	19,939	1,958,502	98.22	285,445	27,845,225	97.55
鋼片、鋼塊、	—	—	60	4,530	60	4,530	75.50	30,075	1,836,783	61.67
シートパー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
以上計	2,075	232,185	17,924	1,730,847	19,999	1,963,032	98.16	315,520	29,682,008	94.07
短尺及層鋼	150	8,121	5,984	301,342	6,134	303,463	50.45	22,483	1,293,735	57.54
以上計	2,225	240,306	23,908	2,032,189	26,133	2,272,495	86.96	338,003	30,975,743	91.64
副製品	—	104,677	—	314,867	—	419,544	—	—	2,359,770	—

昭和5年9月中3港鋼材輸入數量表

(單位噸)

品種\區分	神戶	大阪	橫濱	9月計	前月計	本年累計	前年 同期累計
丸角鋼	513	175	721	1,409	1,147	17,375	57,250
平鋼	67	36	27	130	57	1,884	5,107
等 山	86	51	381	518	602	8,432	12,795
不 等 山	250	—	—	250	329	7,449	15,001
	71	2	27	100	92	4,487	3,314
溝工形	35	—	21	56	174	4,158	7,615
鋼板(6.7mm超)	—	—	—	—	619	8,408	15,745
"(6.7mm以下)	436	153	610	1,199	1,363	4,632	33,310
軾 力	98	103	260	461	471	25,575	62,145
	1,177	449	1,807	3,433	3,421	43,412	47,511
軌線	195	104	95	394	1,571	9,185	24,040
シートパイ	3,345	503	561	4,409	6,144	52,496	115,841
鋼 管	—	—	16	16	3,137	22,490	17,771
其他	155	486	1,458	2,099	1,186	20,774	45,486
計	7,153	2,115	6,273	15,541	21,634	278,256	488,061
硫石	3,250	—	103	3,353	—	—	—
炭 フ	—	—	—	—	—	—	—
安酸	—	9	26	35	—	—	—

昭和5年9月中神戸、大阪、横濱三港輸入鋼材品種寸法別數量表 (其二) (單位噸)

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數
軌條及附屬品の部		線材の部		角鋼	28	1/2	218	8	209	造船材料	
軌條		線材		鋼板	26	3/4	324	8 5/8	247	10''	13
102lbs	104	5mm	216	其他	29	1	244	9	8	計	13
12	95	B.W.G No		合計	67	1 1/4	142	9 3/4	2	鋼管合計	2,103
9	71	6	1,383	外輪	206	1 1/2	38	10''	113	鋼材總計	15,547
其他	124	5	2,731	合計	8	2	91	11 3/8	1	シート	1,612
合計	394	3	21	其他鋼材	214	2 1/2	19	12	80	パイプ	306
繼目板		2	12	鋼管	鋼管	3	92	150mm	6	フエロ	14
寸法不明	1	1	48	鋼管	鋼管	3 1/2	40	Pipe fitting	21	クローム	3)
合計	1	線材合計 4,411		鋼管	鋼管	4	80			ケツグ	
軌附合計	395	其他鋼材の部		鋼管	鋼管	5	2			スチール	
		特殊鋼		鋼管	鋼管	6	31				
		丸鋼	56	鋼管	鋼管	6 1/2	7				
				鋼管	鋼管	7	39	計	2,090		

昭和5年8月民間棒鋼生産高表 (單位噸)

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數
丸鋼		1	2,894	2 1/4	69	角鋼		3	24	2	411
1/4''	125	1 1/8	465	2 1/2	59			3 1/2	3	2 1/4	111
5/16''	28	1 1/4	220	2 7/8	39	3/8''	29	計	703	2 1/2	87
3/8''	220	1 3/8	167	淺野小倉	818	7/16''	16	平鋼		3	48
1/2''	635	1 1/2	257	9mm以下		5/8''	570			3 1/2	33
3/4''	1,411	1 5/8	58	其他	203	1	24			4	2
7/8''	16	1 3/4	125	其他	203	1 1/8	2	7/8''	45	其他	28
1''	2,214	1 7/8	13	計	15,410	1 1/4	27	1	317	計	1,549
1 1/8''	2,337	2	151			1 1/2	3	1 1/4	73	總計	17,662
1 1/4''	2,872	2 1/8	14			1 3/8	2	1 1/2	264		
						2 1/2	3	1 3/4	140		

海外鐵情報 英國昭和5年10月31日著在ロンドン松山商務參事官電報海外經濟事情第3年第45號) 國際鋼カルテルは佛蘭西國反對に一時決裂危まれたるも罰金4弗の復活10月中見合、協定本年中繼續國際ロール・ワイヤー・ユニオンは英國向 F.O.B アントワープ6磅5志を5磅2志6片に横濱渡は7志安の6磅15志に引下又同誌第46號に11月7日著電に鉄鐵需要増加。好轉氣配。鐵鋼類大陸安値に押され、輸出不振。下院は斯業不振の現状に鑑み、政府が適當の救濟策を急速立案すべきことを決議す。鉄力、黑板何れも當座商取引に限られ依然沈滞相場不變。

獨逸(11月8日著在獨逸長井商務書記官電報) 國際粗鋼カルテル重役會、本月5日ブラッセル會合。明年1月1日よりの生産割當並新カルテル規約に關し協議中。

米國銅生産制限協定 (昭和5年11月11日著在ニューヨーク井上商務書記官代理電報) 銅の生産制限に關しアフリカ、カナダ及米國の生産業者の會合當ニューヨークにて行はれ居たる處、7日協定大體纏り、今週早々調印を見るべしと報ぜらる。右は毎月現在の生産高の1割2分乃至1割5分の減産實行を目的とし、世界の生産者全部を包含せしめんとするものなる由なるが、右成立の場合は年二十萬噸以上の減産となり、滞貨の著減を見るべしと觀測する向多し。